

2016 年度

インターンシップ・プログラム

実施報告書

2016 年 12 月



公益
財団
法人

大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

ごあいさつ

2016年度インターンシップ・プログラムの実施にあたり、ご協力を賜りました企業・団体や大学、その他関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

お蔭をもちまして、今年度は421名の大学生が就業体験をさせていただく機会を与えていただきました。それら修了生が実践から「働く」を考え社会人基礎力を養えたものと認識しております。

受入先、学生の双方がよりメリットを享受できるプログラムとして、発展できるよう皆様より引き続きご理解とご協力を賜りたく、今年度のインターンシップ事業の実施状況を本書にまとめました。ご高覧いただければ幸いです。

プログレスコース 総合コーディネーター
渡邊 博己
京都学園大学 経済経営学部 教授



プログレスコースでは、受入企業・団体様が提供するプロジェクトの最終目標達成のため、学生が主体的に計画を立て、実施をしていきます。とくにその実施過程においては、想定外のような困難に遭遇し、そして、計画の甘さ、実行力など様々な問題に気がきます。この気付きにこそ学生達が次代の担い手として成長するきっかけがあると思います。

今年度も魅力的なプロジェクトで学生を受け入れていただきました企業・団体様に厚く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

ビジネスコース 総合コーディネーター
多田 実
同志社大学 政策学部 教授



おかげさまで、今年度も受講生の成長が実感できるプログラムになりました。インターンシップが就職活動に直結している「就活前哨戦」のような感覚で捉えている学生が増えている昨今ですが、本プログラムでは、当初から一貫して「教育プログラム」であることを念頭に置いており、単なる「社会人体験」ではなく受講後の学生生活を考える一助となることを願っております。今後とも皆様のご支援ご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

パブリックコース 総合コーディネーター
古川 秀夫
龍谷大学 国際学部 教授



私が担当するNPOクラスの受講生の実習内容は奉仕・ボランティア活動と呼べるものです。中間指導にうかがった一つの施設での実習は小学生の1週間に及ぶキャンプのサポートをするものでした。その活動に長く携わられている方から、子どもたちの成長よりもお手伝いをしてくれる大学生の成長のほうが目覚ましいというお話をお聞きました。少し申しわけないと思いつつも、本プログラムの意義を再確認させていただくことができました。

目 次

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業の変遷	1
第2章 2016年度インターンシップ・プログラムの実施内容	2
I. プログラムの概要	2
II. プロGRESSコースの実施内容	3
III. ビジネスコース・パブリックコースの実施内容	4
IV. プログラムを運用するにあたって	5
第3章 受入企業・団体のアンケート結果から	8
第4章 受講生のアンケート結果から	14
第5章 今後の課題	27
I. プロGRESSコースの課題	
II. ビジネスコース・パブリックコースの課題	
<資料>	
資料1. 出願者・受講者数と受入企業・団体数について	28
資料2. 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター数の推移	29
資料3. エントリー企業・団体一覧	30
資料4. プロGRESSコース講義概要	32
資料5. プロGRESSコースプロジェクト別コーディネーター一覧	33
資料6. ビジネスコース・パブリックコース講義概要	34
資料7. ビジネスコース・パブリックコースコーディネーター一覧	35
資料8. 受講生意識調査集計結果	36

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業の変遷

公益財団法人 大学コンソーシアム京都（以下「本財団」）が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム（以下「本プログラム」）は、1997年に当時の通商産業省・文部省・労働省が合同で「インターンシップ推進にあたっての基本的な考え方」を取りまとめたことと並行して、本財団に「インターンシップ制度研究会」を発足させたことにはじまる。この研究会における検討の結果、インターンシップは「来るべき新時代に向けての産官学地域等が協働で構築する新たな人材育成を目的とする社会的制度であり、高等教育改革に資するプログラム」であるとして翌1998年度より本格的に始動した。

本プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学地域連携による教育プログラムとして実施してきた。実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的として、単なる就職のためのインターンシップではないことを強調している。これらの目的遂行のため、コーディネーターと事務局の協力による事業推進、受入先への訪問や意見交換会の実施、修生や受入先担当者のゲストスピーカーとしての招聘、ニーズと社会情勢に応じたプログラムの改変、マッチングや事務処理の効率化のための事務システム導入などに努めてきた。

これまでに京都地域にある大学・短期大学（以下「大学」）のすべての学生が参加できるというスケールメリットを活かして、延べ5,100を超える企業や行政機関、非営利組織などの協力のもと、約8,900名の学生が参加し、受入先や大学、受講生、指導するコーディネーターなどの意見を反映しながら、毎年検討を積み重ねてプログラムの改善を図っている。また、2005年度には、大学共同の取り組みとして、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色G P）」に選定されるなど、社会的にも教育プログラムとして高い評価を得ることができた。

本プログラムの開始以降、インターンシップは全国の多くの大学で独自の取り組みが行われた。インターンシップを実施している大学は、1996年度に17.7%であったが、2013年度には70.7%¹⁾となり、インターンシップは定着したと言える。しかし、近年は就職活動解禁日の変更に伴いインターンシップの実施方法や時期に変化が見られる。そこで、2015年度より「インターンシップ事業企画検討委員会」を発足し、今後の本プログラムのあり方について、また充実を目指し、更なる検討を重ねている。

また、各大学との連携について、2014年度から本プログラムを受講した学生に対し、大学が正課科目として単位認定をする場合、大学と本財団の間でインターンシップ・プログラムの運営に関する委託契約を新たに締結する運用を開始した。

今後も、意欲ある学生がプログラムに参加でき、これまで以上に高い満足度を維持するため、産官学地域における連携をより密にするとともに、本プログラムが受講生だけでなく、受入先にとってもより意義のある取組となるよう、プログラムを推進する。

*出典1) 日本学生支援機構 HP

平成24年度、25年度大学等におけるインターンシップの実施状況に関する調査

http://www.jasso.go.jp/career/internship_chousa.html

第2章 2016年度インターンシップ・プログラムの実施内容

I. プログラムの概要

1. コースの設定

①プログレスコース

受入企業・団体が提示したテーマを実現するプロジェクト型として実施する。インターンシップ期間は、6月から11月の約5か月間で、年1回の実施である。

②ビジネスコース・パブリックコース

企業・行政機関・非営利組織（NPO・NGO等）において就業体験を行う実践型として実施する。インターンシップ期間は、7月中旬～9月中旬の間に10日以上で設定され、年1回の実施である。

2. 受入企業・団体の登録

2016年度は、前年度インターンシップ・プログラムの登録企業・団体を中心に、新規企業の開拓にも注力し、383の企業・団体に対しインターンシップ・プログラムへの登録を依頼した。

受入企業・団体の登録を依頼する際には、教育プログラムとして実施するインターンシップの理解を得るため、案内パンフレットと「エントリーの手引き」を活用し、実習日数の確保や実習内容の設定について説明を行った。

このような依頼に対し、ビジネスコース・パブリックコースに221、プログレスコースに17、合計238の企業・団体からの登録を得た。このうち、新規に登録のあった企業・団体数は、ビジネスコース・パブリックコースに21、プログレスコースに7の合計28であった。

3. 学生の募集

学生募集にあたっては、本財団に加盟している大学のうち38大学45カ所のキャンパス、そして非加盟大学では要望により8大学8ヶ所のキャンパスにて、学生へ募集ガイドを配布した。同時に、15大学20ヶ所のキャンパスで開催されるインターンシップ説明会においてプレゼンテーションし、広報活動を行った。また、本財団所在地であるキャンパスプラザ京都でも説明会を実施し、学生へ教育プログラムとしてのインターンシップに参加する意義について丁寧に説明を行うとともに、修了生からの報告や個別相談会等での協力を得て、参加を呼びかけた。

●インターンシップ・プログラム事前説明会・相談会

(日 時) 4月16日(土) 18:00～21:00 (参加学生数) 310名

(会 場) キャンパスプラザ京都

(内 容) 2016年度インターンシップ・プログラム出願について
修了生(6名)による報告
修了生・事務局による個別相談会

●プログレスコース説明会・相談会

(日 時) 4月21日(木) 18:00～21:00 (参加学生数) 50名

(会 場) キャンパスプラザ京都

(内 容) 2016年度インターンシップ・プログラム出願について
受入先による実習内容説明
修了生(2名)による報告
受入先・修了生による個別相談会

4. 出願受付と面接

本財団の加盟大学の正規学生および大学院生であれば、学部・学年を問わず出願を可能とした。また、加盟大学の学生が優先されることを出願者が了承した場合に限り、非加盟大学の学生の出願も受け付けた。

出願手続きは、Webエントリーをした者から出願票を受け付け、面接を実施する方法をとった。出願者全員に対して行う面接では、実習を最後までやり遂げ、さらに向上心があるかを確認する質問項目を設け、出願者の志望動機を確認した。

●Webエントリー期間

4月22日(金)～5月5日(木)

●出願・面接日(会場:キャンパスプラザ京都)

5月6日(金) 16:00～18:30、7日(土) 10:00～15:00

5. 選考・マッチング

出願者に対する選考は、受入先が選考を行う場合と、本財団が選考を行う場合の2種類を設定した。選考方法は、受入先企業・団体の登録時点で決定し、学生へ情報開示した。本財団が選考を行う場合には、受入先が提示する受入要件を満たしているか、また志望理由と実習内容が適合しているかを検討し受講許可を与えた。なお、2016年度にエントリーした受入先企業・団体238のうち、受入先による選考を選択したのは65、本財団による選考を選択したのは、173であった。

ただし、プログレスコースは、長期間のプログラムであり、出願者のプロジェクト内容の理解を確認するため、全て受入先による選考とした。

6. 受講手続

受講料徴収手続については、2016年度も引き続き、原則コンビニエンスストアでの支払いとした。受講料は、ビジネスコース・パブリックコースで10,000円(加盟大学以外の学生は15,000円)、プログレスコースで15,000円(加盟大学以外の学生は20,000円)とし、保険料・施設利用料・その他講座運営にかかる諸費用に充てた。

II. プログレスコースの実施内容

1. 実施プロジェクト

今年度のプログレスコースにエントリーした17団体が提供する17プロジェクトのうち、11プロジェクトが成立した。11プロジェクトの内容と受講生数は、資料5のとおりである。

2. 講義概要

(1) オリエンテーション

受講にあたっての注意点につき事務連絡を行い、プロジェクト記録誌を配布した。プロジェクトメンバーの相互理解を深めることを目的としてプロジェクト毎にミーティングを行った。また、プロジェクト・マネジメントの基礎知識について学び、プロジェクト形成の過程で使用するワークシートの説明を行った。

(2) プロジェクトの導入

プロジェクトの導入にあたり、前年度の修了生(京都府教育委員会のプロジェクトに参加)から体験談を聞き、プレゼンテーションについての気づきを共有した。その後、他プロジェクトの学生との意

見交換を行った。また、ビジネスマナーの習得やコミュニケーション能力の向上を目的としたコミュニケーショントレーニングを実施した。

(3) プロジェクト形成

プロジェクト毎のテーマに応じた目標の設定を行い、目標に向けた体制を明確化し活動計画表を完成させた。プロジェクト形成の終盤では、全受講生合同による講義時間に活動計画の発表を行い、他者からの意見を得て、活動計画の完成度を上げる機会をもった。

(4) プロジェクトの実施

主に受講生の夏期休暇を利用して、活動場所を受入先に移しプロジェクトを実施した。

(5) プロジェクトの振り返り

プロジェクトの評価方法について学び、成果報告に向けた資料の作成と最終成果報告会への準備を行った。また、プログラムの受講を通じた自己の変化を知る自己評価の時間を設け、今後のキャリア形成に向けた振り返りの機会を設けた。

(6) プロジェクト報告・評価

最終受講日には、成果報告会を実施し、約5か月間の活動報告とその成果について発表し、プロジェクト報告書を作成した。

III. ビジネスコース・パブリックコースの実施内容

1. 実習受入について

今年度は、ビジネスコースで127団体に252名、パブリックコースで38団体に108名の学生に対し受講許可を決定した。出願者と受講者数については、資料1のとおりである。

2. 講義概要

(1) 事前学習

実習に向けた目標と仮説設定を業界研究を通して言語化することをねらいとして、1クラス12名～17名で編成されたゼミ形式で実施した。業界研究については、修了生40名と受入先企業・団体のご担当者13名の方のご協力を得て実施し、社会が求めるスキルや心構えなどについても学習する機会とした。

(2) ビジネススキル研修

ビジネスマナーの基本とコミュニケーション能力の向上及びロジカルシンキングの獲得を目指し、専門講師による研修を実施した。

(3) リスクマネジメント講習

社会で起こりうるトラブルやリスクについて学び、「報・連・相」の重要性について理解を深めることをねらいとして実施した。2016年度より、事前学習の初日講義日と最終講義日の2度に分けて講習を行った。

(4) 事後学習

実習で経験したことを他者に伝え、他者が経験から学んだことを聞くことにより、事前学習で設定した目標の達成や仮説の検証を行い、その後の学習意欲の喚起につながる目標を明確化するねらいをもって実施した。

2016年度の「実習経験交流会」では全クラスを4グループに分け、その中でクラスごとに発表し、他クラスからのコメントを元にした振り返りも行った。

他クラスの経験からも学び、幅広い知見をもって自己の学習を振り返る機会とした。

IV. プログラムを運用するにあたって

1. 受入先企業・団体との連携

ビジネスコース・パブリックコースにおいては、マッチング後に説明会を実施し、学生を受け入れる際の重要事項を伝達するとともに、担当コーディネーターとの意見交換の時間を設けた。また、学生が実習を行っている間に、コーディネーターが受入先を訪問し、実習状況の確認を行った。プログレスコースにおいては、出願受付の前に説明会を実施し、年間スケジュールや学生を受け入れる際の重要事項を伝達した。

●ビジネスコース・パブリックコース受入先ご担当者説明会

- (日 時) 6月7日(火) 17:30~18:30
- (会 場) キャンパスプラザ京都
- (参加数) 受入先ご担当者 95名
- (内 容) 2016年度インターンシップ・プログラムについて
受入先ご担当者による事例報告
受入先様：三共精機株式会社
受入先ご担当者とコーディネーターとの意見交換

●プログレスコース受入先ご担当者説明会

- (日 時) 4月21日(木) 17:30~18:00
- (会 場) キャンパスプラザ京都
- (参加数) 受入先ご担当者 24名
- (内 容) 2016年度のプログラム概要及び年間スケジュールについて

2. 大学・短期大学との連携

学生の所属大学と連携し、プログラムの広報、意見交換、情報の共有化を行った。プログラムの広報としては、大学・短期大学の希望に応じ学生対象のプログラム説明を行った。また、前年度の3月には大学担当者の連絡会議を開催し2016年度プログラムの実施概要を説明した。

また、本プログラムを大学が単位認定する場合、インターンシップ事業に関わる単位委託契約の締結を行った。プログラム終了後、この契約に基づいた科目担当者会議を開催し、コーディネーターが採点した成績を開示するとともに、受入先の実習状況評価、受講生のレポート、講義への出欠状況を確認する機会を設けた。

3. インターンシップ事業企画検討委員会におけるプログラムの検討

プログラムの開始から10年目を迎えるにあたり各種委員会として立ち上げられた「インターンシップ研究会」は、長期的な教育プログラムの方向性について組織的に検討する機関として機能していたが、議題が多岐に渡るため、近年コーディネーター会議との位置づけが不明確になってきた。そこで、本来の目的に沿った機能が発揮できるよう、2015年度より、「インターンシップ事業企画検討委員会」と名称を改め、その役割を整理した。なお、インターンシップ研究会で担っていた教務に関する事項については、各コースのコーディネーター会議で審議することとしている。

2016年度も引き続き、専門委員会としてプログラムに関する検討、審議を行った。

<教育プログラムとしての質的向上に向けた課題>

- 2017年度受入先開拓の方針について

- 加盟校のインターンシップ出願・広報・実施状況について
- 受入先担当者説明会及びコーディネーターとの意見交換会について
- インターンシップ受入先に関する規約について
- コーディネーター委嘱に関する規約について

<プログラムの特色を検証し広報する取り組み>

- 修了生サポーターの協力体制・状況について

インターンシップ事業企画検討委員会構成員

委員長	古川 秀夫	龍谷大学 国際学部 教授
副委員長	多田 実	同志社大学 政策学部 教授
委員	渡邊 博己	京都学園大学 経済経営学部 教授
	三浦 潔	京都文教大学 総合社会学部 教授
	河村 律子	立命館大学 国際関係学部 教授
	辻野皓一朗	大谷大学・大谷大学短期大学部 学生支援部キャリアセンター
	安本祐一郎	京都学園大学 キャリアサポートセンター
	町田 玲史	立命館大学 共通教育課(OIC)インターンシップオフィス(10月31日まで)
	久保 歩	立命館大学 共通教育課(OIC) (11月1日から)
	代崎 拓也	京都文教大学 就職部就職進路課
	石川 武	三共精機株式会社 代表取締役社長

4. リスクマネジメント

(1) 保険

本財団では、プログラム開始から終了までの期間（実習期間を含む）、全コースの受講生を対象として、普通傷害保険及び個人賠償保険に加入し、不慮の事故やけが等に対応している。2016年度は、保険金請求事例はなかった。

【普通傷害保険】 死亡・後遺障害 500 万円／入院保険金日額 4,500 円／通院保険金日額 3,000 円

【個人賠償保険】 てん補限度額 1 億円（自己負担額 0 円）

(2) リスクマネジメント講習

ビジネスコース・パブリックコースにおいては、事前学習にてリスクマネジメント講習を設定し、想定される事例のケーススタディを行った。また、プログレスコースにおいては、初日のオリエンテーションにおいて、「報告・連絡・相談」の重要性とともに、プログラム中に起こりうるリスクへの対応を受講生に伝えた。

(3) 三者協定書の締結

実習が円滑に進められるよう、全受入企業・団体と受講生の所属大学、本財団の三者間で「インターンシップ実習生派遣に関する協定書」を締結した。

参考：インターンシップ・プログラム 写真

1. インターンシップ説明会（左：全体説明会、右：プログレスコース説明会）



2. ビジネスコース・パブリックコース講義

（左：ビジネスマナー研修、中：ゼミの様子、右：実習経験交流会）



3. プログレスコース講義（左、中：プロジェクトごとの打ち合わせ、右：成果報告会）



4. 受入先での実習の様子

（①株式会社富田屋 ②公益財団法人大学コンソーシアム京都 ③株式会社魁半導体 ④有限会社ティーエスピー）



第3章 受入企業・団体のアンケート結果から

今年度のインターンシップ・プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「かなり満足」「やや満足」を合わせた数字から算出すると94%であった。また、次年度の受入れ予定については、72%の受入先が「受入れる予定である」と回答されており、ご負担が多いにもかかわらず、多数の受入先から支持を得たことが窺える。一方、プログラムに対するご意見については改善点として認識し、今後検討していくこととする。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I. アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

ビジネスコース・パブリックコース 2016年9月中旬～下旬(実習終了後)
プログレスコース 2016年11月初旬～中旬(プロジェクト終了後)

2. 回答数

	企業・団体数	回答数	回答率
ビジネスコース	127	104	81.9%
パブリックコース	38	30	78.9%
プログレスコース	11	10	90.9%
総計	176	144	81.8%

II. アンケートの集計結果

1. 受入れについて

●ご準備いただいた実習内容に対し、インターンシップ生のマッチングについてはいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①満足している	90	86.5%	27	90.0%
②どちらでもない	9	8.7%	1	3.3%
③不満がある	2	1.9%	1	3.3%
無回答	3	2.9%	1	3.3%
総計	104	100.0%	30	100.0%

【①の理由】

実習生の興味と当社の業務がマッチングしていた。
学生が弊社及び周辺環境に関心を持っていた。
IT業界に興味を持ってくれていた為
学生さんも良かったと言ってくれたので一応そう思っています。
学生が皆、素直でやる気があった。
当社の営業マンとの同行営業を基本として活動していただいたが非常に興味を持って取り組んでいただいた。
初めての受け入れですが〇〇くんが良かったです。
優秀な学生に来て頂いたのでスムーズにインターン活動が出来ました。
全員とてもしっかりしていて、申し分ありませんでした。
すべての業務に対して、好奇心をもって真剣に取り組んで頂きました。
ご本人が希望された部署で実習してもらえた。

【②③の理由】

実習生にとっては、少し難しかったかもしれません。
本人の目的、知りたい内容があり、こちらもお客様の前に出る接客中心としていた中で、最初の頃～中盤まで、コミュニケーションに少々不安なところがありました。
体調不良で休む事があったから。
今回の学生さんは幅広く部署を受入れていただきましたが、マッチングの点では高いと言えず、申込～学生決定の時期と部署確定の難しさを感じています。

●実習内容は主にどのようなものを実施されましたか。(複数回答可)

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①社員の基幹的な業務の一部を体験	59	56.7%	12	40.0%	7	70.0%
②社員の補助的な業務の一部を体験	44	42.3%	15	50.0%	4	40.0%
③社員の通常業務以外の業務	10	9.6%	1	3.3%	1	10.0%
④見学を中心に実施	10	9.6%	1	3.3%	3	30.0%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	9	8.7%	1	3.3%	4	40.0%
⑥その他	3	2.9%	2	6.7%	5	50.0%
無回答	3	2.9%	1	3.3%	0	0.0%

【⑥その他の記述欄】

社会人としての常識・心構え
 座談会による疑問の解消
 ものづくりのスタートから終わりまでの一連
 1日座学、マナー研修、ソリューション研修、8日、営業アテンド(外回り)1日、成果発表
 座学、体験通じ全職種の学び
 事業の当日スタッフとして、会員と一緒に運営や安全確保のための活動
 イベントの運営サポート

●支給された各種手当の総額をお答えください。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0円	80	76.9%	26	86.7%	9	90.0%
1円～4,999円	10	9.6%	2	6.7%	0	0.0%
5,000円～9,999円	2	1.9%	1	3.3%	0	0.0%
10,000円～19,999円	6	5.8%	0	0.0%	0	0.0%
20,000円以上	4	3.8%	0	0.0%	1	10.0%
無回答	2	1.9%	1	3.3%	0	0.0%
総計	104	100.0%	30	100.0%	10	100.0%

●次年度のインターンシップ受入れについてお伺いします。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①受入れる予定である	78	75.0%	19	63.3%	7	70.0%
②受入れない	0	0.0%	1	3.3%	1	10.0%
③未定	26	25.0%	9	30.0%	1	10.0%
無回答	0	0.0%	1	3.3%	1	10.0%
総計	104	100.0%	30	100.0%	10	100.0%

2. 受講生について

●参加した学生の実習態度はいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①真剣に取り組んだ	92	88.5%	28	93.3%	8	80.0%
②ふつう	12	11.5%	1	3.3%	2	20.0%
③真剣さを感じられなかった	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	104	100.0%	30	100.0%	10	100.0%

●学生自身に成長があったと思われますか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	95	91.3%	26	86.7%	8	80.0%
②どちらともいえない	9	8.7%	2	6.7%	2	20.0%
③成長があったと思えない	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%
総計	104	100.0%	30	100.0%	10	100.0%

●前問で「①成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。(複数回答)

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	30	28.8%	8	26.7%	4	40.0%
②自主性・独創性の育成	30	28.8%	10	33.3%	4	40.0%
③キャリア形成	11	10.6%	0	0.0%	1	10.0%
④問題解決能力の向上	11	10.6%	5	16.7%	1	10.0%
⑤多様な価値観の認識	48	46.2%	14	46.7%	7	70.0%
⑥コミュニケーション能力の向上	47	45.2%	7	23.3%	2	20.0%
⑦プレゼンテーション能力の向上	17	16.3%	5	16.7%	2	20.0%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	24	23.1%	11	36.7%	1	10.0%
⑨その他	4	3.8%	3	10.0%	1	10.0%

【⑨その他の記述欄】

ホスピタリティ精神の向上

目的・目標の違いの説明の重要性、グループで意見調整し仕事をしあげる難しさ

大きな成長ではないと思うが、問題を前にしたときに乗り越えていくための心構えのようなものが生まれた

自身の現状の能力レベルの把握・課題の発見

自分自身の適正把握

3. インターンシップ・プログラムについて

●大学コンソーシアム京都が行うインターンシップに参加された一番の理由は何ですか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①大学コンソーシアム京都の加盟大学との強化	12	11.5%	5	16.7%
②指導することにより社員の育成になるから	27	26.0%	2	6.7%
③学生への自社PRのため	9	8.7%	2	6.7%
④採用活動につなげたいから	14	13.5%	4	13.3%
⑤学生から自社に対するアイデアを得るため	5	4.8%	2	6.7%
⑥社会貢献	32	30.8%	10	33.3%
⑦その他	4	3.8%	4	13.3%
無回答	1	1.0%	1	3.3%
総計	104	100.0%	30	100.0%

【⑦その他の記述欄】

優秀な学生が多い

当社の「根本課題」に学生視点を交えアプローチするためや、就活で実際に活用するツールを作成のため
社内の活性化

インターン生のスタッフとしての働きが当社の取り組みに必要な不可欠なため

大学職員という職種を理解してもらおう場を提供するため

滞っている業務を進め、職場を活性化するため

●学生を受入れて、一番のメリットは何ですか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①大学との連携強化	10	9.6%	4	13.3%
②職場活性化	32	30.8%	11	36.7%
③指導する社員の成長	18	17.3%	3	10.0%
④自社のPR・広報・宣伝	7	6.7%	1	3.3%
⑤優秀な学生との出会い	16	15.4%	1	3.3%
⑥新たな企画開発	3	2.9%	0	0.0%
⑦社会貢献	16	15.4%	8	26.7%
⑧その他	0	0.0%	1	3.3%
無回答	2	1.9%	1	3.3%
総計	104	100.0%	30	100.0%

【⑧その他の記述欄】

ミスマッチの減少と離職率の低下
有りがたい限りです

●学生を受入れて、一番のデメリットは何ですか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①指導に時間・コストがかかる	59	56.7%	14	46.7%
②事前の準備に時間・コストがかかる	15	14.4%	8	26.7%
③安全への配慮に手間がかかる	4	3.8%	0	0.0%
④情報漏えいが不安である	6	5.8%	3	10.0%
⑤その他	18	17.3%	4	13.3%
無回答	2	1.9%	1	3.3%
総計	104	100.0%	30	100.0%

【⑤その他の記述欄】

デメリットは特になし

京都で受け入れるため、滋賀・岡山(営業所)の社員があまり関わりを持たず、京都社員と差が開くこと
指導する社員が毎日変わるので、個々の社員によって熱心さが変わるのでないかと危惧する。

学生との認識の違う距離感(メリットでもある)

マッチングが確実に行われるか不安

受入部署の確保

指導に時間、コストはかかりますが、それを上回る成果が出ていると思う

●過去に受け入れた学生が、貴社・貴団体の採用試験に参加されたことはありますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	32	30.8%	8	26.7%
②ない	48	46.2%	8	26.7%
③新卒採用を行っていない	11	10.6%	5	16.7%
④わからない	11	10.6%	8	26.7%
無回答	2	1.9%	1	3.3%
総計	104	100.0%	30	100.0%

●前問で「①ある」と答えた方にお伺いします。

過去に受け入れた学生を、貴社・貴団体において採用されたことがありますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	20	62.5%	6	75.0%
②ない	2	6.3%	2	25.0%
③採用には至らなかったが応募していた	9	28.1%	0	0.0%
無回答	1	3.1%	0	0.0%
総計	32	100.0%	8	100.0%

●大学コンソーシアム京都以外から大学生のインターンシップを受け入れていませんか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①はい	65	62.5%	27	90.0%
②いいえ	34	32.7%	2	6.7%
無回答	5	4.8%	1	3.3%
総計	104	100.0%	30	100.0%

●2016年度のインターンシップ・プログラム全体についてどの程度満足されていますか。

	ビジネス		パブリック		プログレス	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に満足	22	21.2%	6	20.0%	2	20.0%
②かなり満足	43	41.3%	14	46.7%	4	40.0%
③やや満足	32	30.8%	9	30.0%	4	40.0%
④やや不満	3	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
⑤かなり不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑥非常に不満	0	0.0%	1	3.3%	0	0.0%
無回答	4	3.8%	0	0.0%	0	0.0%
総計	104	100.0%	30	100.0%	10	100.0%

Ⅲ.ご意見・ご要望について(自由記述欄より抜粋)

本項目については、基本的に原文のまま掲載する。ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

【学生について】

官公庁	今回初めて募集の際第2希望まで書いていただき面接もさせていただきましたが、人気の部署が傾ってしまい、1人でも多くの方に来ていただければよかったのですが、残念でした。例年、技術職の募集へは応募が少ない状況ですので、その点で応募の勧奨等お願いできればと思います。
官公庁	市の美術展覧会の仕事に実習として来ていただき、いろいろと普段できない体験をしていただけたと思います。これからはより多くの方がインターンシップに参加されることを期待します。
コンサルティング・調査・研究	大学院生の応募があると有難い。
非営利組織 (NPO/NGO)	2年連続でインターンシップ参加希望者が現れなかったのが、介護福祉の現場に関心を持っている学生は少ないのかと感じておりましたが、今回2名も紹介して頂き、このような機会が出来たことをうれしく思います。また、次年度以降も学生との交流し、福祉の現場を見てもらえればと思います。
非営利組織 (NPO/NGO)	今年受け入れた学生は全員優秀で、とても満足しています。マッチングがとてもよかったと思います。
マスコミ・広告・印刷・出版	色んな大学が集まっているのは学生にとっても企業にとっても良いことだと思います。多少、辛いこともあったと思いますが、頑張っていました。
マスコミ・広告・印刷・出版	映画祭のWEB企画を考えるという難しい課題にも真面目に取り組んでいただき新鮮な意見を聞くことができました。

【事前事後について】

官公庁	事前学習を通して、インターンシップ期間外から、意欲を高めているプロセスが効果的で、初日から礼儀正しく、誠意をもって、各業務にあたって下さいました。
教育	事前の指導がしっかりと行われているためか、学生の目的意識、マナーが大変良かったです。
非営利組織 (NPO/NGO)	交流発表の場もとても有意義なものであると感じた。学生にとって、とても良い経験になった。
非営利組織 (NPO/NGO)	事前に教育がきちんとされているので、3人いましたが、まとまりがあって良かったです。

【書類について】

ソフトウェア・通信	実習の登録等は、システムでしているが、出欠や実習状況報告書、アンケートはFAXやメールです。システムで全てできればいいのではと思いました。
-----------	---

【スケジュールについて】

教育	本学を希望いただくインターンシップ生の実習希望内容は学生対応です。しかしながら受入時期は夏期休暇中により希望にそえないことに対し苦慮します。
教育	経団連がインターンシップの下限日数を5日から3日に引き下げる動きがあります。実質的には就業体験というよりも会社説明により近付くこととなります。コンソーシアムのインターンシップは「教育プログラム」であるからこそ、このような動きとは対極に位置して、将来のある若者、学生を育てなければと思います。
コンサルティング・調査・研究	実習期間を5日間にさせていただいた方が参加しやすい。
レジャー・アミューズメント	弊社の業務内容の為、夏休みは除して10月頃来て欲しい。弊社業務内容(大学に訪問、先生へのアプローチ)夏休みは営業に回ってもほとんど仕事にならない。(学校が休みの為)

【プログラム全体について】

官公庁	インターンシップを通じて、学生達の就職へのステップとして良い経験ができるよう、学校側と連携をとりながら進めていきたいと考えます。学生達がインターンシップの経験を次のステップに繋げられるようサポートをお願いします。
官公庁	コーディネーターによる中間指導は、必ず実施すると決まっているのか。個々の考えに委ねられているのかどちらなのでしょう。
宿泊・レストラン・フードサービス	今回は2度目という事で、昨年の経験をふまえた上で受入をさせていただきました。業務後にも本人に声をかけてフォローしていたように思っていたのですが、ずっと「大丈夫です」という言葉もあり、今回、参加された〇〇さんの「不安」を初期からぬぐうのには少々こちらの認識との「ずれ」があったように感じました。決して「労働力」を求めているのではなく、「働く」上で大切な要素を仕事上、動いてもらいながら伝えたつもりですが本当にこちらの意図通り伝わったは少し不安でした。インターンシップに参加される方にも、「何をどのように、いつ相談するべきなのか」など、私達のような会社で「人を喜ばせる上で何が出来るのか」を考え、積極的に動いてもらえたら良いかと思います。今後もよろしくお祈りします。
製造	年々、インターンシップ自体の質が低下していると思います。
製造	今回も大変お世話になりました。また、実習生1名が辞退という結果となり、御財団にも多大なるご迷惑をおかけしました。改めてお詫び申し上げます。しかしながら、今回の一件で色々とお勉強させて頂きました。これに懲りず、次回もよろしくお祈りいたします。
製造	弊社のインターンシップは内容的には非常に充実していると思いますがBtoB 大阪の企業であることもあり、もっと学生にインターンシップを周知・PRがあれば有り難いです。
非営利組織 (NPO/NGO)	担当者としては初めてでしたが、大方思った業務、インターン支援が出来たように思います。地域の間支援は積極的なインターン受け入れをしています。今後とも宜しくお祈りします。ありがとうございます。

第4章 受講生のアンケート結果から

今年度のインターンシップ・プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「やや満足」を合わせると全体の80%であった。また、成長感については、92%の受講生が「成長があったと感じる」と回答した。

概して、受入先企業・団体における就業体験においては満足度も高く成長感にもつながり、体験以外の研修や講義の部分を含んでも、アクティブ・ラーニングによる効果を実感する受講生の意見が多く出された。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I. アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

ビジネスコース・パブリックコース 2016年9月24日(事後学習日)
 プロGRESSコース 2016年11月12日(最終講義日)

2. 回答数

	回答数
ビジネスコース	236
パブリックコース	104
プロGRESSコース	57
総計	397

II. アンケートの集計結果

1. 実習について

●あなたが実習をおこなった受入先へのマッチングはいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①大変満足	99	41.9%	54	51.9%
②満足	107	45.3%	42	40.4%
③どちらでもない	24	10.2%	6	5.8%
④不満	4	1.7%	2	1.9%
⑤とても不満	1	0.4%	0	0.0%
無回答	1	0.4%	0	0.0%
総計	236	100.0%	104	100.0%

●あなたが体験した実習内容は、主にどのようなものでしたか。(複数回答可)

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①社員の基幹的な業務の一部を体験	94	33.7%	37	31.6%
②社員の補助的な業務の一部を体験	93	33.3%	57	48.7%
③社員の通常業務以外の業務	17	6.1%	11	9.4%
④見学を中心に実施	35	12.5%	6	5.1%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	19	6.8%	1	0.9%
⑥その他	16	5.7%	3	2.6%
無回答	5	1.8%	2	1.7%
総計	279	100.0%	117	100.0%

【その他の記述内容】

ボランティア
 長期間のキャンプの運営
 人員確保問題に対する研究
 企業組織体験プログラム
 機材の組み立て
 基本的な仕事と企画発表を行った
 講義、グループワーク、見学、体験研修

通常業務と日々の課題
 セミナーを開催する準備と集客
 研修などや店舗実習、見学、プレゼンテーションなど
 インターン生専用の課題について一緒に社員さんと取り組む
 社員さんが忙しくてできてない業務の一つで、その事業の推進につながる

●実習の実働日数は何日間でしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
10日未満	2	0.8%	4	3.8%
10日	173	73.3%	47	45.2%
11～15日	43	18.2%	41	39.4%
16～29日	17	7.2%	12	11.5%
30日以上	0	0.0%	0	0.0%
無回答	1	0.4%	0	0.0%
総計	236	100.0%	104	100.0%

●実習の実働日数についてはいかがでしたか。

※ビジネスコース・パブリックコースを合わせて集計

	①長すぎる	②やや長い	③適当	④やや短い	⑤短すぎる	無回答	総計
10日未満	0	1	5	0	0	0	6
10日	5	59	140	12	3	1	220
11～15日	6	33	39	6	0	0	84
16～29日	4	12	9	2	0	2	29
30日以上	0	0	0	0	0	0	0
無回答	0	1	0	0	0	0	1
総計	15	106	193	20	3	3	340

2. 受講生自身の変化について

●あなた自身に成長があったと思われますか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	217	91.9%	94	90.4%	53	93.0%
②どちらともいえない	17	7.2%	10	9.6%	3	5.3%
③成長があったと思えない	2	0.8%	0	0.0%	1	1.8%
無回答		0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

●前問で「成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。(複数回答)

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	77	32.6%	45	43.3%	16	28.1%
②自主性・独創性の育成	62	26.3%	22	21.2%	21	36.8%
③キャリア形成	41	17.4%	23	22.1%	8	14.0%
④問題解決能力の向上	36	15.3%	21	20.2%	18	31.6%
⑤多様な価値観の認識	127	53.8%	55	52.9%	32	56.1%
⑥コミュニケーション能力の向上	88	37.3%	36	34.6%	25	43.9%
⑦プレゼンテーション能力の向上	32	13.6%	11	10.6%	9	15.8%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	50	21.2%	21	20.2%	14	24.6%
⑨その他	3	1.3%	5	4.8%	5	8.8%

【その他の記述内容】

視野が広がった
 学芸員としてのスキルを知ることができた
 以前より自分に自信がついた
 大学専攻と関わり
 仕事に対する考え方の向上
 自己分析のさいの新たな視点の獲得
 自分の現状を知り課題を見つけた
 社会に対する考えの甘さを認識することができた

●受入先への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	40	16.9%	28	26.9%	16	28.1%
②やや就職したい	117	49.6%	53	51.0%	10	17.5%
③あまり就職したくない	53	22.5%	16	15.4%	15	26.3%
④就職したくない	26	11.0%	6	5.8%	14	24.6%
無回答	0	0.0%	1	1.0%	2	3.5%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

●受入先と同業種への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	49	20.8%	44	42.3%	20	35.1%
②やや就職したい	120	50.8%	42	40.4%	14	24.6%
③あまり就職したくない	51	21.6%	11	10.6%	15	26.3%
④就職したくない	16	6.8%	7	6.7%	8	14.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

●就職することに対する意識の変化について

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したいと強く思うようになった	116	49.2%	51	49.0%	27	47.4%
②就職したいと少し思うようになった	66	28.0%	32	30.8%	10	17.5%
③それほど変化はなかった	38	16.1%	18	17.3%	15	26.3%
④就職したくないと少し思うようになった	11	4.7%	3	2.9%	3	5.3%
⑤就職したくないと強く思うようになった	5	2.1%	0	0.0%	2	3.5%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

●実習前と比較して、実習した受入先の業種・職種のイメージはどうなりましたか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①良くなった	176	74.6%	78	75.0%	36	63.2%
②変わらない	49	20.8%	22	21.2%	15	26.3%
③悪くなった	11	4.7%	4	3.8%	6	10.5%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100%

●インターンシップ実習で何を得られましたか。

1) 働くということを実感できた

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	5	2.1%	1	1.0%	0	0.0%
②あまり思わない	17	7.2%	2	1.9%	6	10.5%
③どちらでもない	13	5.5%	15	14.4%	5	8.8%
④思う	123	52.1%	52	50.0%	26	45.6%
⑤とてもそう思う	78	33.1%	34	32.7%	19	33.3%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

2) 受入先について知ることができた

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	4	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	4	1.7%	1	1.0%	3	5.3%
③どちらでもない	3	1.3%	1	1.0%	7	12.3%
④思う	91	38.6%	44	42.3%	23	40.4%
⑤とてもそう思う	132	55.9%	58	55.8%	24	42.1%
無回答	2	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

3) 自分のスキルが向上した

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	5	2.1%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	12	5.1%	6	5.8%	0	0.0%
③どちらでもない	56	23.7%	18	17.3%	12	21.1%
④思う	123	52.1%	63	60.6%	32	56.1%
⑤とてもそう思う	40	16.9%	17	16.3%	12	21.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

4) 自分の専門知識が向上した

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	8	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	15	6.4%	12	11.5%	8	14.0%
③どちらでもない	72	30.5%	18	17.3%	8	14.0%
④思う	104	44.1%	58	55.8%	26	45.6%
⑤とてもそう思う	37	15.7%	16	15.4%	14	24.6%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

5) 自分の力試しが出来た

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	6	2.5%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	17	7.2%	6	5.8%	2	3.5%
③どちらでもない	50	21.2%	20	19.2%	10	17.5%
④思う	104	44.1%	52	50.0%	24	42.1%
⑤とてもそう思う	58	24.6%	26	25.0%	20	35.1%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	1	1.8%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

6) 卒業までの目標設定ができた

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	3	1.3%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	23	9.7%	10	9.6%	7	12.3%
③どちらでもない	55	23.3%	23	22.1%	18	31.6%
④思う	105	44.5%	41	39.4%	16	28.1%
⑤とてもそう思う	49	20.8%	30	28.8%	14	24.6%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	2	3.5%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

7) 受入先に貢献できた

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	12	5.1%	1	1.0%	3	5.3%
②あまり思わない	36	15.3%	11	10.6%	8	14.0%
③どちらでもない	73	30.9%	38	36.5%	21	36.8%
④思う	95	40.3%	43	41.3%	17	29.8%
⑤とてもそう思う	19	8.1%	11	10.6%	7	12.3%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	1	1.8%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

8) 他大学の学生・教員とのネットワークができた

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	12	5.1%	5	4.8%	0	0.0%
②あまり思わない	23	9.7%	7	6.7%	7	12.3%
③どちらでもない	42	17.8%	17	16.3%	7	12.3%
④思う	104	44.1%	53	51.0%	18	31.6%
⑤とてもそう思う	54	22.9%	22	21.2%	24	42.1%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	1	1.8%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

● 実習を終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思うことは何ですか。

1) ビジネスマナーや話し方

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	43	18.2%	23	22.1%	9	15.8%
②やや不安だ	106	44.9%	44	42.3%	33	57.9%
③どちらでもない	31	13.1%	20	19.2%	8	14.0%
④あまり不安ではない	50	21.2%	14	13.5%	6	10.5%
⑤不安でない	6	2.5%	3	2.9%	1	1.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

2) 職場の人との人間関係

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	37	15.7%	10	9.6%	8	14.0%
②やや不安だ	86	36.4%	28	26.9%	16	28.1%
③どちらでもない	41	17.4%	24	23.1%	11	19.3%
④あまり不安ではない	54	22.9%	32	30.8%	17	29.8%
⑤不安でない	18	7.6%	10	9.6%	4	7.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

3) スキルや専門知識

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	40	16.9%	21	20.2%	6	10.5%
②やや不安だ	111	47.0%	52	50.0%	22	38.6%
③どちらでもない	53	22.5%	21	20.2%	17	29.8%
④あまり不安ではない	21	8.9%	8	7.7%	9	15.8%
⑤不安でない	10	4.2%	2	1.9%	2	3.5%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	1	1.8%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

4) 体調管理

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	19	8.1%	6	5.8%	3	5.3%
②やや不安だ	48	20.3%	23	22.1%	16	28.1%
③どちらでもない	41	17.4%	21	20.2%	9	15.8%
④あまり不安ではない	71	30.1%	24	23.1%	22	38.6%
⑤不安でない	56	23.7%	30	28.8%	7	12.3%
無回答	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

3. インターンシップ・プログラムについて

● インターンシップ・プログラム全体についてどの程度満足していますか。

	ビジネス		パブリック		プロGRESS	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②やや不満	7	3.0%	5	4.8%	1	1.8%
③どちらでもない	40	16.9%	11	10.6%	10	17.5%
④やや満足	113	47.9%	54	51.9%	29	50.9%
⑤非常に満足	72	30.5%	34	32.7%	17	29.8%
無回答	4	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
総計	236	100.0%	104	100.0%	57	100.0%

Ⅲ. ビジネスコース・パブリックコース「実習経験交流会」について(自由記述欄より)

聞いて思ったこと

- ・実習によって、学ぶことが違うので、私たちが学べなかったことも補えた。
- ・自分もいろんな企業のインターンに行きたいと思った。
- ・違った業界の話が聞けて興味を持った企業が多く、他の業界にも視野を広げられた。
- ・自分たちのゼミと違った職種の話を知ることができ幅広く学ぶことができた。
- ・インターンシップを終えて、その経験を今後の学生生活やキャリア形成にいかしていこうとする意識が見られて良かったと思う。
- ・積極性やコミュニケーション力は、あらゆる職種に共通していることが参考になった。
- ・自身の改善点も見つかり、良い刺激となりました。
- ・ビジネスとパブリックの違いを実感することができた。
- ・全員で交流できる場があって、意見交換をすることができ、良い経験になった。
- ・ゼミでの振り返りは良かったけれど、交流会の内容はあまり為にならなかった。

内容

- ・経験交流会ではできれば全クラスの方から実習の感想を聞きたかった。
- ・具体的にミスしたことをきくと、学んだことがわかりやすかったです。
- ・実体験をもっと話すべきだと思った。
- ・質疑応答の時間があるとよいと思った。
- ・発表で学んだ事に重きがおかれていた気がした。もう少し業界について知りたかった。
- ・発表を聞く機会はとても貴重。企業からのフィードバックも有難い。
- ・全体でフィードバックする場をつくるのはとても良いと思った。
- ・質問に答える時間がとても良いと思った。
- ・先生方・受入先企業の方のお話が聞けて良かった。
- ・6グループだけではなく、ほかのグループの発表を聞く機会があればさらによかった。
- ・最後の意見交換の時間は非常に興味深く、発表よりも充実している点もありよかった。

発表準備・時間について

- ・10分の発表では物足りない。
- ・今回、発表時間が8分と短く、深い話が聞けなかったのが残念。
- ・ゼミ報告の持ち時間8分なので、上辺だけの報告になってしまうなと感じた。以前は立食会での報告会があったと聞き、その方がざっくばらんに話せるのでよいと思う。
- ・もう少し時間をかけて他の企業とか発表を聞きたかった。
- ・まとまりがなく要点がわからなかった。
- ・8分の発表を1.2時間の即席で作るのは正直しんどいと思った。もちろん準備をする側としても厳しかったですが、即席の発表を聞く側もけっこうしんどいです。発表を皆の前でするならある程度準備時間は必要だと感じます。

- ・最終発表会の準備が短かった。
- ・経験交流会をどのようにして発表するか決める時間がとても少なかった。発表日のタイムスケジュールを全ゼミで統一するなどして交流会発表に向けての準備時間をもっといただきたかった。私のゼミクラスでは、午前中から午後にかけて事後レポートの振り返りを1人1人していったので、交流会の準備にかかる時間がほぼ30分程度しかなかった。発表形式をインタビューや紙を使って工夫しようにも時間がなく事前に決めなければならぬと残念です。レポートの振り返りを短くするなどしてほしかった。
- ・発表準備時間が短いため、内容が薄く、表面的になってしまっていたのが残念だった。「～を学びました」「貴重な経験をしました」等、伝えたいことはたくさんあるはずなのに、発表時間の制約のせいで、具体的に何を学び、何を得たのかわからなかった。
- ・時間のない中でのプレゼンは準備不足であることもあり、ゼミで行う報告だけでも良いのではないかと感じました。
- ・発表のやり方を各クラス統一した方が良いのではないかと。全体でものを作って発表したり、一人一人が発表したりとバラバラの形式だったから。また、当日いきなり発表の形式についてお聞きしたので、あらかじめ事前連絡をもらい、どのように当日発表するか準備しておきたかったです。
- ・実習先の方もお越しになっているのに「発表がなくて残念」とのコメントをいただきました。

発表方法・コメントシートについて

- ・会場が大きく、模造紙の内容が見えなかった。プロジェクターなどを使ってほしい。
- ・OHCも使えると発表の幅が広がりそう(見やすい)。
- ・パソコン等を使って発表すると見やすいのではないかと。
- ・模造紙にまとめて後ろの方まで見られないので少し残念だった。
- ・模造紙を使った発表が聞く側からしたら分かりやすいと感じました。
- ・時間制限があり、内容が消化しきれず、ポストイットにコメントしていたので相手にとってもためになることが書けなかったのが残念です。
- ・もし可能であれば、各クラスの実習風景がわかるようなスライドで写真を見せたり、スライド(パワーポイント)を使ったりすることができたらイメージしやすくてよりよかったですのではと感じました。

その他

- ・実習経験の共有やフィードバックが重要というのは分かるが、頻度が多いと感じました。
18講の実習経験の振り返りは正直余分に思えます。講習の時間配分(レポート添削の際の待ち時間など)は、ゆとりが多すぎる。
- ・「交流会」という名前は相応しくないと思う。また、発表のテーマをある程度決めても面白いと思う。

IV. 意見・感想について(自由記述欄より)

1. ビジネスコース・パブリックコースの自由記述

●マナー研修・ロジカルシンキング研修に関する意見

- ・実習を行う前のマナー指導によって取り組む姿勢が変わりやる気が出た。
- ・マナーやロジカルシンキングは必要なものなので、もう少し時間を取っても良いのではないかと思いました。
- ・マナー講座や事前学習、事後学習があることで、インターン実習だけでなく、グループワークの大切さなども学ぶことができました。
- ・マナー講座で、メールのことについてもっとやってほしかった。どのタイミングで返信をやめてもいいのかわからなかった。
- ・電話対応や対人の会話などでマニュアルにないことが起こった場合何もできないということになりかねないので、臨機応変さも学べればよいと思う。
- ・言葉遣いや挨拶、社会でのマナーなども学べた点はよかったです。
- ・マナー講座で教わったことはインターンの現場で生きることばかりだったので、もう少し時間を増やしてもいいのではないかと思いました。
- ・実習をする前は自信がなく不安に思っていたが、マナー講座や座学を通して、理解が深まったし実習をやりきったことに対して自信につながったと思う。
- ・姿勢や挨拶、表情などの基本的なことがきちんとできているかという点を気付けたことが今回の財産となりました。

●リスクマネジメント講義について

- ・リスクマネジメント講習では、業務上でのリスクの回避、対応について講義していたことはわかりましたが、講義内容の要点をもう少し絞ってほしいと思いました。

●事前・事後学習について

- ・クラス内での学習カリキュラムを統一してほしいと思いました。発表前の準備が十分にできていなかったことが心残りです。
- ・事前学習がしっかりしていたため、実践に移す時ある程度の想定をすることができた。
- ・事前・事後レポートに向け、ゼミでのプレゼンを行う中で、大変だと感じることはありました。人前での発表や他者の発表を聞くことで、自分の改善点を見つけることやプレゼンの技術を少しですが身につけることができました。また、大学等他のインターンシップではなかなか経験できない場所で実習でき、自分の進路についてきちんと考える良い機会になりました。
- ・大きな報告会に出席したのが初めてで、良い経験になりました。今度は自分が前に出て、

自分のプレゼンの悪いところを指摘してもらいたいです。

- ・事前事後学習があるため、他のインターンシッププログラムより「社会」について学ぶ機会があるので受入先から良い印象を与えることができた。
- ・事前学習の時間が足りなかったように感じたので、一回程度は、増やしても良いのではないのでしょうか。
- ・事前学習に不必要な時間が多かったように思う。詰めれば2日でおわるのでは。
- ・事前事後レポートの作成および実習本番の内容が全体を通して一番満足度の高いものでした。特にレポート作成による課題設定は正直、強制されていないと面倒がってできないことなので今回取り組ませていただけてよかったです。
- ・実習前後のサポートが手厚くとても助けられた。また、同じような実習先で集められたクラスで仲間がたくさんできたことがうれしかった。
- ・事前事後レポートなど、ただインターンシップに参加するだけでなく、なぜ参加するのか考え、目標を明確にする機会を持てたことでより有意義な経験となった。インターンシップで得たことをきちんと整理し、またほかの人の経験談について知ることができた。
- ・事前事後学習が丁寧に行われていて、インターンシップに行くだけでなく事前にインターンシップ先の学習や振り返りができたのでよかったです。
- ・事前に考える場、事後に反省する場が設けられており、様々な大学の人との考えを共有することができてよかったです。
- ・事前事後学習もしっかりあって、目標や反省を立てたり振り返ったりできてよかったです。
- ・前後にゼミクラスがあり、他のインターン生と交流できたことで、実習前の心の準備やマナー研修、実習後には自身の経験を客観的に特徴づけることができた・少人数のゼミでの事前・事後学習は大変ためになったが、大人数の講義・報告会はあまり有意義な時間ではなかった。特に報告会はもっと違うやり方があるのではないかと感じた。
- ・プレゼン・人前で話す機会がたくさんあり、良い経験になった。
- ・実習先ではマナー講座で学んだことがあまりいかされていないように思えた。
- ・職場でのインターネットの利用を可能にしてほしかった。
- ・事前学習について、大学の補講日と同じ日で調整が難しかったです。
- ・事前レポートや事後レポートのガイドラインがほしかったです。

●コーディネーターについて

- ・コーディネーターと学生の距離が近く相談しやすい環境が整っていた。

●受入先について

- ・個人的に就職したい企業で非常に良かった。
- ・提携先が増えてくれればパブリックの選択肢もふえるのではないかと。
- ・多くの部署を回れたので、とても良かった。

- ・比較的長期であったので、本当の意味で職業について知ることができて良かった。
- ・インターンシップの期間が長すぎると思いますし、女子には結構ハードな仕事だったので2週間で十分だと思います。
- ・実習するだけでなく、オリエンテーションや中間報告、最終報告など数回に分けて自分の考えや相手の意見を確認する場面があったので、より気持ちを整理することができてよかったです。
- ・IT や理系のインターンシップに参加したが、受入先が少ないと感じたので増やしてほしい。
- ・もし英語のインターンシップがあったらまだ多くの可能性があると思いました(留学生)。
- ・実習先から予め課題や勉強してほしい内容の提示があってもよいのではないのでしょうか。
- ・受入先場所が変わったり、業務内容が思っていたのと違う箇所があった。交通費などの問題もあるので、そういった変更内容は早めに教えて欲しかった。

●ゼミクラス

- ・クラスメンバー全員で仲良くなり、情報交換ができたことが何より良かったと思います。これからも関係を続けて、就活の情報交換をしたいです。
- ・ほかのインターンシップとは違い、同じ意識を持った他大学の人たちと関わることができたことは本当に良い経験になりました。

●プログラムを通して

- ・自分自身成長できた。百聞は一見にしかずではないが、ネットで調べ、友達に聞くだけでは学べない本当に貴重な体験ができた。
- ・単純な業種調査では得る事の出来ない「实际的」な学びを得る貴重な経験となった。唯一残念なのは、期間が短く、不完全燃焼な面があったことで、まだまだ体験できていないことも多かった
- ・インターンに参加して、就活に対する不安やもやもやが、晴れた気がする。働く事の大変さを近くで見ることができ、社会人の厳しさを目のあたりにし働くことは大変なことだと改めて気づかされた。インターンシップはつらいことも多くありましたが、知らなかったことに触れることができ、多くの人と話すことができたので参加できて本当に良かった。この経験を活かして就活と向き合っていきたい。
- ・すごく貴重な体験ができた。自分に興味のある業種にインターンに行かせていただき、就職した時の事を想像することができ将来について考える機会になりました。
- ・自分を成長させる良い機会になった。参加しようか迷っていましたが参加してよかった。
- ・課題の量などが適切で、働くという事についてしっかり考えて自分を見つめ直す良い経験になりました。
- ・実習先によって業務内容は様々であることが分かった。このプログラムは、自分で積極

的に行動しないと得るものは何もないといっても過言ではないほど、積極性が大切だと思った。自分には、積極性が少し足りないと感じた。

- ・以前はあまり積極的なタイプではなかったのでこのインターンシッププログラムに参加したとき、積極性や自主性をもって取り組むということを誓ったのですが、振り返ってみてその誓いを守ることができたのではないかと思います。
- ・まだまだ自分自身と向き合うことが出来ていないということに気づかされました。これから就職活動に取り組んでいかななくてはならない立場であるからこそ、それを自覚して立ち向かっていきます。
- ・自分には足りないものを気づくことができたし、自分の能力を伸ばす機会になりました。やはり他大学の学生と交流できるというのは、とてもいい機会だと思います。
- ・企業のインターンシップは業務内容を重視したものかディスカッションや自己分析を重視したものに分かれるが、コンソーシアムのインターンシッププログラムはその両方を備えていてよかった
- ・普段の学生生活は経験することができない貴重なものとなり自信にもつながりました。実際に足を運んでしかわからない事を知ることができ、自分と公務員のイメージのギャップを埋めることができた。社会の常識やマナーを知ることができ、社会人としての一歩を少し踏み出せたのかなと思います

●その他・意見・要望

- ・インターンシップの意見交換では座学が多かった。また、移動が多かった等の意見を聞きました。もう少しインターンシップの内容・構成等を考え直すことも検討すべき。
- ・自分が想像していたインターンのイメージとは少し異なるものがあつた。前に同じ実習先もしくは似たような場所へ行った人の体験文などを読むことができればよいと思った
- ・レポート提出方法が郵送可やメール添付可であればうれしかったです。
- ・コンソと受入先の連携をもう少し綿密にとってほしいと思いました。受入先が聞いていない話が多々ありました。
- ・実習先の人とコンソの人と連携をとって情報共有できているのか疑問に感じました。

2. プロGRESSコースの自由記述

●講義について

- ・実習前後の変化を見る講義（自己評価の講義）が良かったです。面白かったです。
- ・マナートレーニングがあつて良かったです。
- ・企業と教育委員会が同じ講義内容というのは少し不満とを感じる場面があつた。
- ・キャンパスプラザでの講義の日にもっと学生同士や事業所の方とミーティングの時間が欲しかった。

- ・講義のある日、ない日がわかりにくかった。
- ・時間帯について、終了時間がもう少し早い方が良い。
- ・開始・終了時刻の厳守をお願いしたかった。
- ・インターンの実習を既に終えた先輩方の話を、最初だけでなくもう少し聞いてみたい気持ちもありました。
- ・受入先のプログラムに集中するため、ワークシートの提出がやっつけ仕事になっており、重荷に感じた。提出は必要最低限でよいと思った。

●全体について

- ・受入先やコーディネーターの方にも多くの質問ができる機会があり、今後もその環境は続けるべきだと思います。
- ・同じ受入先でない人とも交流でき、コミュニティーの輪が広がった。
- ・思っていたよりもすることが多く、他のことを行いながらだと深くかかわることができないことがあった。
- ・楽しい体験学習だけでは終わらず大変な事や、乗り越えるという経験までさせてもらえるのは貴重な機会であると思いました。
- ・夏休み中にコンソーシアムやコーディネーターの方々とかかわることがなく、インターン生同士で煮詰まったり、だれてしまった部分があった。
- ・いろいろな業種があったのがとても良かったが、自分が就きたい業種がなかったのが残念だった。しかし社会に出るためのステップアップができた。
- ・インターンシップに参加し、自分自身何か変われば、成長できればと思って参加したが、思ったよりも有意義なものになった。

●その他・意見・要望

- ・成果報告を聞いた人がプレゼンの評価をできて、アンケート等で「よく伝わった実習先」「プレゼンを工夫した実習先」など、集計して後日発表されるような報告会にしてはどうでしょうか。さらに真剣に聞こうとするし、プレゼンする方もモチベーションが上がっていいのではないかと思います。
- ・大学との連携をしっかりとってほしい。教育の要素があると最初に聞いていたが、学校との両立が非常に難しかった。
- ・受入先やコーディネーターの方にもっと相談しやすい環境を作って欲しかった。

第5章 今後の課題

事業創設時より受講生、受入団体の拡大とプログラム水準の高度化を進めてきたが、インターンシップの定着化に伴い、財団事業としての特色が求められている。2017年度も引き続き、質的充実のため、講義内容も含めたプログラム全体の見直し・改善を、インターンシップ事業企画検討委員会、各コーディネーター会議を中心に進める。

全コース共通課題として、学生の出願数確保、新任を含めたコーディネーター相互の連携強化、それらにおける大学との協力関係の強化、受入先検索システムにおける受入先の検索機能の向上などを引き続き検討する。また受入先とコーディネーターとの連携強化や受入先基準の明確化により、各受入先においてさらに質の高い実習プログラムに改善していくことが必要である。

また、大学との委託契約については2014年度より、単位認定を行おうとする大学と財団間においてインターンシップ事業に関わる委託契約の締結を開始した。引き続き、単位認定を行う大学については委託契約を進めるとともに、未だ単位認定を行っていない加盟大学に対して積極的な働きかけを行う。

2015年度には、インターンシップ修了後一定期間を経た修了生を対象としたアンケート調査を実施し、報告書を発行した。この結果、インターカレッジゼミとしての魅力やプログレスコースでの成果が特色として挙げられ、財団インターンシップが教育プログラムとして機能していることが一定示された。今後も、修了生に広報活動等で協力を得る「修了生サポーター制度」(2015年度発足)も大いに活用し、財団インターンシップの魅力と特色を発信していく。

I. プログレスコースの課題

さらなる質的充実を目指し、高い教育効果を得られるようプログラムを検討する。また、受講生にとってプロジェクト目標の明確化及び円滑なプロジェクト活動が可能となるよう、受入先、コーディネーターとの連携を強化する。

II. ビジネスコース・パブリックコースの課題

2016年度で2年目となった事後学習での「実習経験交流会」について、各コーディネーター及び受講生から寄せられた改善点を基に実施方法を再検討する。

また、各大学へ委嘱するコーディネーターの安定的確保のための仕組みの構築を検討する必要がある。

資料1. 出願者・受講者数と受入れ企業・団体数について

1) コース別 出願者数と登録団体数

コース名	学生			企業・団体		
	出願者数	実習許可者数	修了者数	登録団体数	受入れ団体数	受入れ率
ビジネス	458	252	233	172	127	73.8%
パブリック		108	102	49	38	77.6%
プログレス	66	61	57	17	11	64.7%
合計	524	421	392	238	176	73.9%

2) 学年別 出願者数と受講率

学年	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
1年次(回生)	5	1.0%	5	1.2%	100.0%
2年次(回生)	57	10.9%	43	10.2%	75.4%
3年次(回生)	452	86.3%	364	86.5%	80.5%
4年次(回生)	7	1.3%	6	1.4%	85.7%
5年次以上(回生)	0	0.0%	0	0.0%	0.0%
大学院生	3	0.6%	3	0.7%	100.0%
合計	524	100.0%	421	100.0%	80.3%

3) 男女別 出願者数と受講率

	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
男性	184	35.1%	148	35.2%	80.4%
女性	340	64.9%	273	64.8%	80.3%
合計	524	100.0%	421	100.0%	80.3%

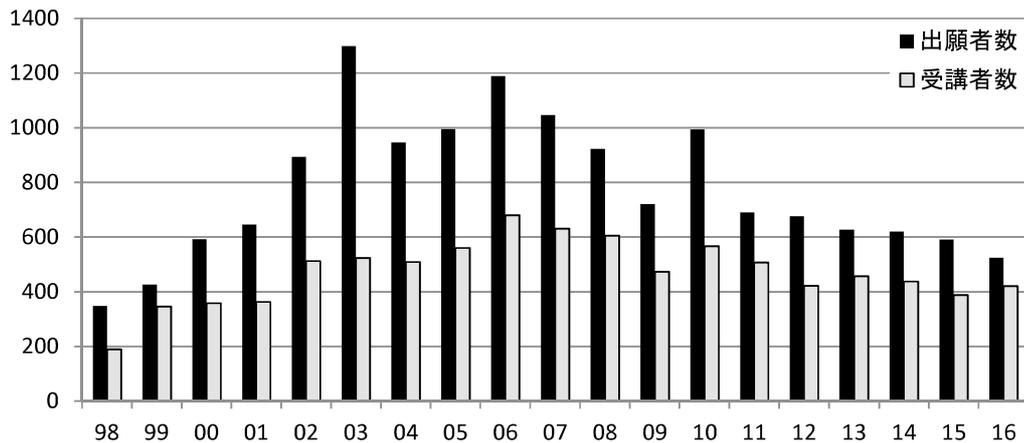
4) 大学別 出願者数

	大学名	出願者数		大学名	出願者数	
加盟大学	京都大学	4	加盟大学	京都ノートルダム女子大学	12	
	京都教育大学	2		京都美術工芸大学	0	
	京都工芸繊維大学	6		京都文教大学	31	
	京都市立芸術大学	1		京都文教短期大学	0	
	京都府立大学	13		京都薬科大学	0	
	京都府立医科大学	0		種智院大学	0	
	福知山公立大学	0		成安造形大学	17	
	池坊短期大学	0		成美大学短期大学部	0	
	大谷大学	9		同志社大学	62	
	大谷大学短期大学部	0		同志社女子大学	15	
	京都医療科学大学	0		花園大学	0	
	京都外国語大学	0		佛教大学	12	
	京都外国語短期大学	0		平安女学院大学	1	
	京都学園大学	14		平安女学院大学短期大学部	0	
	京都華頂大学	1		明治国際医療大学	0	
	華頂短期大学	0		立命館大学	8	
	京都看護大学	0		龍谷大学	138	
	京都経済短期大学	0		龍谷大学短期大学部	0	
	京都光華女子大学	19		大阪医科大学	0	
	京都光華女子大学短期大学部	1		京都情報大学院大学	0	
	京都嵯峨芸術大学	0		放送大学 京都学習センター	0	
	京都嵯峨芸術大学短期大学部	1		大阪大学	0	
	京都産業大学	34		関西大学	1	
	京都女子大学	85		大阪学院大学	1	
	京都精華大学	1		大阪経済大学	2	
	京都西山短期大学	1		奈良県立大学	3	
	京都聖母女学院短期大学	0		奈良大学	3	
	京都造形芸術大学	0				
	京都橘大学	26				
					出願者総数	524

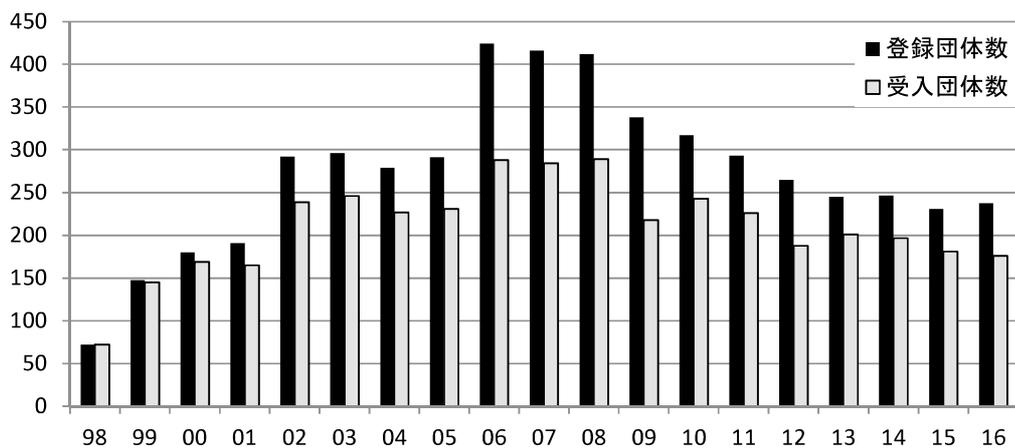
資料2. 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター(CO)数の推移

年度	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16
出願者数	348	426	593	646	893	1298	946	994	1189	1047	923	721	993	690	676	627	621	591	524
受講者数	190	346	358	363	512	523	509	560	680	630	605	473	567	507	422	456	437	388	421
登録団体数	72	148	180	191	292	296	279	291	424	416	412	338	317	293	265	245	247	231	238
受入団体数	72	145	169	165	239	246	227	231	288	284	289	218	243	226	188	201	197	181	176
CO人数	9	12	13	16	27	26	30	32	39	40	43	37	37	38	37	35	32	31	33

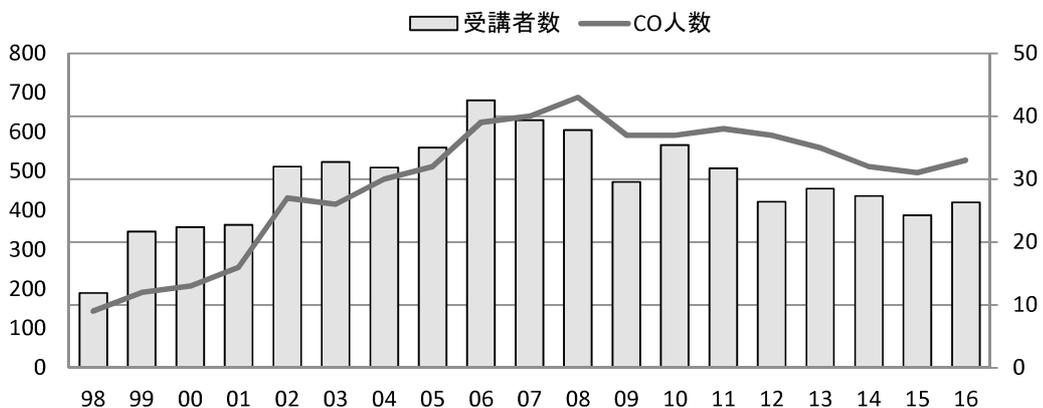
出願者数の推移



参加団体数推移



CO数と受講生推移



資料3. 受入先登録企業・団体一覧

ビジネスコース・パブリックコース

◆製造

グンゼ株式会社
 秀和株式会社
 ダイイチ株式会社
 日東電工株式会社
 大和電設工業株式会社
 株式会社石田老舗
 株式会社老松
 キンシ正宗株式会社
 株式会社聖護院ハツ橋総本店
 株式会社 西利
 ロンドフードサービス株式会社
 株式会社カシフジ
 金井重要工業株式会社
 寺崎電気産業株式会社
 パナソニックシステム
 ネットワークス株式会社 関西社
 株式会社壬生電機製作所
 カナリア株式会社
 有限会社共同設計企画
 株式会社魁半導体
 株式会社積進
 株式会社堀場製作所
 株式会社加貫ローラ製作所
 株式会社キョーテック
 株式会社ShinSei
 株式会社セイワ工業
 株式会社 傳來工房
 日東精工株式会社
 マルホ発條工業株式会社
 ムラタ
 株式会社 箭木木工所
 株式会社山城工芸

◆人材ビジネス

株式会社OVO
 学生情報センターグループ
 株式会社ナジック・アイ・サポート
 株式会社キイストン
 株式会社キャリアパワー

◆士業(法律・会計事務所)

司法書士法人F&Partners
 大阪社労士事務所
 特許業務法人京都国際特許事務所
 京都税理士法人
 中央ビジネスグループ
 中村利雄法律事務所

◆小売・販売・専門店

株式会社川勝總本家
 京都生活協同組合
 株式会社くろちく倭美坐
 株式会社ジェイアール西日本伊勢丹
 株式会社ジュンク堂書店 京都店
 生活協同組合コープこうべ
 つるやゴルフ
 株式会社野田屋
 株式会社ハートフレンド
 (総合食品スーパーフレスコ)
 株式会社花工房
 株式会社Hibana
 富士ゼロックス京都株式会社
 丸善雄松堂株式会社京都支店
 株式会社 レスキュージャパン
 株式会社 ワイングロサリー

◆ソフトウェア・通信

株式会社アローラ
 株式会社教育ソフトウェア
 協和テクノロジー株式会社
 株式会社クラウドクリエイティブスタジオ
 株式会社クラックスシステム
 株式会社SIGEL
 バルトソフトウェア株式会社

◆コンサルティング・調査・研究

しあわせ総合研究所グループ
 株式会社地域社会研究所
 株式会社地域未来研究所
 株式会社三菱総合研究所

◆マスコミ・広告・印刷・出版

アートム株式会社
 株式会社あおぞら印刷
 株式会社エトレコミュニケーションズ
 株式会社エフアイシー
 株式会社関広
 株式会社京都通信社
 株式会社京都放送
 有限会社くらむぼん出版
 株式会社島津アドコム
 株式会社デアライブ
 有限会社ティーエスピー
 株式会社ディレクターズ・ユニブ
 株式会社図書印刷同朋舎
 株式会社ビードリーム
 株式会社貿易広告社 大阪支社
 未来映画社
 株式会社リーフ・パブリケーションズ

◆金融・保険・証券

株式会社葵総合保険
 株式会社エスアールエム
 SMBC日興証券株式会社
 京都信用金庫
 京都中央信用金庫
 全労済中日本事業本部
 西村証券株式会社

◆建設・不動産

株式会社学生ハウジング
 京都駅ビル開発株式会社
 株式会社空間デザイン
 株式会社長栄
 株式会社日建設計
 株式会社莫設計同人
 株式会社フラットエージェンシー
 有限会社一級建築士事務所 ターボ設計
 株式会社ローバー都市建築事務所

◆商社・卸売

株式会社 古裂會
 (オークションハウス 古裂會)
 株式会社佐野
 三共精機株式会社
 株式会社ヒトミ

◆医療・福祉

公益社団法人
 京都市身体障害児者父母の会連合会
 医療法人財団康生会武田病院
 社会福祉法人行風会
 医療法人社団 千春会
 社会福祉法人同胞会同胞の家
 長岡記念財団老人保健施設
 アゼリアガーデン
 パナソニック エイジフリー株式会社
 洛和会ヘルスケアシステム
 社会福祉法人和楽会
 特別養護老人ホームわらく

◆安全・メンテナンス・清掃

株式会社アイアム
 京都エレベータ株式会社
 株式会社高浄
 株式会社 ワタナベ美装

◆運輸・物流

株式会社サカイ引越センター
 株式会社塚腰運送
 都タクシー株式会社

◆宿泊・レストラン

ウェスティン都ホテル京都
株式会社プリンスホテル 大津プリンスホテル
株式会社大林工務店
株式会社キャピタル東洋亭本店
京都タワー株式会社
株式会社プリンスホテル
グランドプリンスホテル京都
株式会社国華荘 びわ湖花街道
里湯昔話 雄山荘
株式会社すみや亀峰菴
株式会社 琵琶湖ホテル
株式会社ホテルグランヴィア大阪
株式会社ロイヤルホテル
(リーガロイヤルホテルグループ)

◆エンタテインメント

株式会社ビーイング

◆ブライダル

株式会社エイジェイクリエーション

◆レジャー・アミューズメント

嵐山通船株式会社
株式会社エルムドトラベル
オーパルオペテックス株式会社
近鉄レジャーサービス株式会社
(志摩スペイン村)
株式会社 ビックスマイル
有限会社丸益西村屋

◆教育(学校・大学等)

株式会社キャリア総研
京都外国語大学 京都外国語短期大学
京都学園大学
京都華頂大学・華頂短期大学
国立大学法人京都工芸繊維大学
京都産業大学
京都女子大学
京都精華大学 京都国際マンガミュージアム
京都大学
京都ノートルダム女子大学
京都文教大学
京都薬科大学
社会福祉法人 熊千代会 こぐま上野保育園
公益財団法人 大学コンソーシアム京都
同志社女子大学
同志社大学
一般社団法人のあつく自然学校校方統括事務所
学校法人 佛教教育学園 佛教大学
立命館大学
学校法人龍谷大学
京都府立るり溪少年自然の家

◆官公庁

綾部市役所
宇治市役所
近江八幡市
一般財団 大阪教育文化振興財団
亀岡市役所
川西町役場
京田辺市役所
京都芸術センター
京都国立近代美術館
京都市
公益財団法人京都市国際交流協会
京都市野外活動施設 花背山の家
公益財団法人 京都市ユースサービス協会
京都府庁
草津市役所
滋賀県庁
摂津市
徳島県大阪本部
豊中市伊丹市クリーンランド
長岡京市役所
南丹市教育委員会社会教育課
南丹市立文化博物館
東近江市役所
彦根市
福知山市役所
宮津市役所
向日市役所
守山市役所
野洲市役所
粟東市役所

◆その他

大阪高齢者生活協同組合
かみなか農楽舎
認定特定非営利活動法人気候ネットワーク
株式会社京都映画センター
京都工業株式会社
サンスイコンサルタント株式会社
株式会社ジイケイ京都
株式会社JTB西日本 京都支店
ドーン運営共同体
株式会社富田屋
西陣織会館
株式会社乃村工藝社
公益財団法人びわ湖ホール
株式会社ミル総本社
株式会社ユメコム

◆非営利組織<NPO・NGO>

特定非営利活動法人
アントレプレナーシップ開発センター
特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会
京都府地球温暖化防止活動推進センター
一般財団法人京都ユースホステル協会
公益財団法人公害地域再生センター
(あおぞら財団)
特定非営利活動法人
子育て支援コミュニティおふいすパワーアップ
特定非営利活動法人子ども自立の郷
ウォームアップスクールここから
特定非営利活動法人月と風と
特定非営利活動法人
とよなか市民環境会議アジェンダ21
特定非営利活動法人ピープルアクティブライフ
認定NPO法人びわこ豊稷の郷
特定非営利活動法人結芽

ブログレスコース

株式会社インサイトハウス
センチュリー21 株式会社インサイトホーム
株式会社インテリジェンスオフィス
認定NPO法人大阪NPOセンター
認定特定非営利活動法人気候ネットワーク
特定非営利活動法人 木野環境
京都市
公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会
京都シネマ 株式会社如月社
公益財団法人 京都市ユースサービス協会
京都府教育委員会
特定非営利活動法人子ども自立の郷
ウォームアップスクールここから
コンセプトグラマー有限会社
株式会社 図書印刷同朋舎
未来映画社
株式会社ユメコム
株式会社よさの

資料4. プログレスコース講義概要

日程	時間	全体の 流れ	回数	講義名	講義 形式	内容		
6/9 (木)	18:00～ 19:30	プロジェクトの 導入	第1講	オリエンテーション (プログラムの概要・リスクマネジメント) プロジェクト・マネジメントの概要 -PCMの講義-	全 受 講 生 合 同	プログラムの概要やプログラムに臨む心 構え等の説明を受ける。 PCM講義で、実習先に確認すべき点につい て、教員からアドバイスを受ける。 プロジェクトに分かれ、実習生、実習 先、コーディネーターがお互いに自己紹 介をする。今後の日程についての確認。 ワークシート①を完成させる。		
	19:40～ 21:10		第2講	プロジェクトメンバーの相互理解 (ワークシート①)				
6/23 (木)	18:00～ 19:30		第3講	プロジェクト・マネジメント (ワークシート②、③)		各 プ ロ ジ エ ク ト	各コーディネーター・実習先のもとで、 今後の活動の見通しを持つ。 ワークシート②、③を完成させる。	
	19:40～ 21:10		第4講					
6/30 (木)	18:00～ 19:30		第5講	修了生によるプレゼンテーション プロジェクト・マネジメント (他プロジェクトとの意見交換)			全 受 講 生 合 同	修了生によるプレゼンテーションからプ ロジェクトを学ぶ。 他プロジェクトの実習生との意見交換を 行い、理解を深める。
	19:40～ 21:10		第6講	コミュニケーショントレーニング				就業意識の向上、ビジネスマナーの基 本、対人関係の中での コミュニケーション能力等について、専 門講師による講習を受ける。
7/7 (木)	18:00～ 19:30	プロジェクトの 形成	第7講	プロジェクト・マネジメント (テーマに応じて実習や事業のデザイン)	各 プ ロ ジ エ ク ト		プロジェクトを形成する体制の明確化す る。	
	19:40～ 21:10		第8講				プロジェクト活動計画表を完成させる。	
7/14 (木)	18:00～ 19:30		第9講	プロジェクト・マネジメント (今後の活動の確認、活動計画の発表)	全 受 講 生 合 同	プロジェクト活動計画表の発表。他プ ロジェクトの実習生との意見交換を行い、 プロジェクト活動の完成度を高める。		
	19:40～ 21:10		第10講	プロジェクト・マネジメント (他プロジェクトとの意見交換)				
夏休み期間中には、受入先ごとにプロジェクトを行います。								
9/29 (木)	18:00～ 19:30	プロジェクトの 振り返り	第11講	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト中間報告)	全 受 講 生 合 同	それぞれのプロジェクトにおける夏期休 暇中の進捗状況を報告しあい、質問や感 想を交換し合い、今後の成果報告会に向 けての準備を行う。		
	19:40～ 21:10		第12講	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト評価方法の概要) (ワークシート④)		プロジェクト評価の方法を学び、成果報 告会につなげる。 ワークシート④を完成させる。		
10/13 (木)	18:00～ 19:30		第13講	プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備①)	各 プ ロ ジ エ ク ト	プロジェクトの実施、プレゼンテーショ ンの準備等行う。		
	19:40～ 21:10		第14講	プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備②)				
10/27 (木)	18:00～ 19:30		第15講	プロジェクト・マネジメント (自己評価：プログラム受講を通しての自己 の変化を振り返る)	全 受 講 生 合 同	プログラム受講を通しての、自己の変化 を振り返る。		
	19:40～ 21:10		第16講	プロジェクト・マネジメント (プレゼンテーション準備③)	各 プ ロ ジ エ ク ト	プレゼンテーションの準備を行う。		
11/12 (土)	10:40～ 12:10	プロジェクト報告・ 評価	第17講	成果報告会・修了式	全 受 講 生 合 同	約5ヶ月にわたるプログラムの総括とし て、プロジェクトごとに 活動報告を行う。全体で、それぞれのプ ロジェクトの到達 点について相互評価を行い、今後の学生 生活の目標を明らか にする。		
	13:00～ 14:30		第18講					
	14:40～ 16:10		第19講					
	16:20～ 17:50		第20講					
	18:00 ～19:00		懇 親 会			受入先担当者・コーディネーター・受講 生による懇親会 ※参加必須		

資料5. プロGRESSコースプロジェクト別コーディネーター一覧

受入先	プロジェクト概要	受講生数	コーディネーター
京都府教育委員会	【教員養成サポートセミナー】 教員を目指す大学生が、学校現場での演習を通して理論と実践を結びつけ、実践的指導力を身に付けていくことを目指す。	20	谷口 知弘 (福知山公立大学)
株式会社よさの	【Ready to Tango】 与謝野における農業事情や新しく始めた加工用トマトの産地化、6次産業化の取組について学ぶ。その上で、トマトソースの開発及びデザインを改良し、市場調査をする。	6	河村 能夫 (龍谷大学)
未来映画社	【映画を作って配給して宣伝して公開しようプロジェクト】 制作、配給、宣伝を行う劇場映画企画に参加し、撮影前の準備、撮影アシスタントとして撮影に参加、配給宣伝の実務作業を研修、体験する。	7	◎渡邊 博己 (京都学園大学)
公益財団法人 京都市ユースサービス協会	【LIVE KIDS 25回記念大会(25th Anniversary) プロモーション・プロジェクト】 主にLIVE KIDS 25回記念大会のプロモーション企画運営。多様な価値観に触れ、様々な役割や仕事があつてフェスタが成り立つプロセスを体感し学ぶ。	1	申 昌浩 (京都精華大学)
特定非営利活動法人 子ども自立の郷ウォームアップスクールここから	【世代を超えて、みんなで作る夏祭りと触れ合いの場+αの楽しみ作り2016】 不登校の子どもたちや地域の方々を巻き込みながら5回目となる夏祭りの実現と触れ合いの場作りを通して、企画・準備・実践をやり遂げるプロジェクト。また、触れ合いの場も一層充実したものにする為にピザ窯の建設等も、子どもと共にしていく。	2	
京都シネマ株式会社如月社	【びあフィルムフェスティバル運営サポート】 びあフィルムフェスティバル(以下PFFと表記)についての研修。PFFスカラシップ作品上映・イベント企画。PFF本祭について事前準備・宣伝・期間中運営・ゲスト対応などに取り組む。人との向き合い方や接し方、自分自身の考えを深め表現していくこと、また映画・映像の世界を知ることによって新たな発見ができる。	3	桜沢 隆哉 (京都女子大学)
特定非営利活動法人 気候ネットワーク	【自然エネルギー100%社会に向けたソーシャル・イノベーション調査・発信】 自然エネルギー100%に向けたイノベーション事例を調査するプロジェクト。NPOがどうやって社会課題の解決に貢献するのか、最前線で活動できる。	1	
公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会	【広めよう！地域でゴミゼロ大作戦】 「祭りのあたらしいお作法」を京都市内各地に広げていくプロジェクト。祇園祭で、使い捨て食器をリユース食器に切り替える活動が展開され、ごみ量を前年比4割減、重さにして20トン以上減量させた。その経験を活かして、京都市内各地の地域コミュニティが主催する夏祭りでゴミゼロ作戦を展開することを通して、地域で環境活動を広めていくために必要なノウハウを明らかにする。	5	西村 雅信 (京都工芸繊維大学)
株式会社インテリジェンスオフィス	【ヒトマナビインターンシップ2016】 フリーペーパー『働く人々 図鑑2016』の発行と『仕事研究イベント』の開催。就活に役立つフリーペーパーの発行とイベントの開催を目指す。企画・営業・取材・編集・制作をと、様々な仕事にチャレンジしながら、働く”リアル”を体感するプロジェクト。	11	大西 孝之 (龍谷大学)
コンセプトグラマー有限公司	【京都朝げいこ】 出勤前の朝時間を活用する朝活講座。PR会社が独自で事業化しているので、講座の企画・運営・募集実務を通じて、本格的にエリアマーケティング、プロモーションの実践に触れる。	3	山本 建太郎 (京都工芸繊維大学)
株式会社 図書印刷同朋舎	【インターネットで地域を全力応援します！】 インターネットを通じて、地域の商店や施設、活動団体等の魅力を、地域に暮らす方へお届けする事業。地域情報サイト『まいぶれ下京区・東山区版』が、2万PVを達成することを目標に、学生目線での発見や、新しい情報の届け方・届け先を開拓し、コンテンツページの企画・取材・編集をする。	2	

◎総合コーディネーター

資料6. ビジネスコース・パブリックコース講義概要

日程	時間	回数	講義名	講義形式	内容
6/11(土)	10:00～11:00	第1講	オリエンテーション： プログラム参加にあたって リスクマネジメント講習①： 事前学習に向けての心構え	全受講 生合同	プログラムの概要や、プログラムに臨む心構え等を説明 します。
	11:20～12:50	第2講	クラスの相互理解	ゼミ	クラスに分かれ、担当教員を中心として、クラスメンバー の紹介をしあいます。
	13:50～15:20	第3講	実習に向けた目標と仮説設定		グループディスカッションを中心として、実習目標と仮説 設定のための意見交換を行います。
	15:30～16:30	第4講	コミュニケーショントレーニング		就業意識の向上、ビジネスマナーの基本、対人関係の中 でのコミュニケーション能力等について、専門講師を 招いて講習します。
	16:40～18:10	第5講			
6/25(土)	10:00～11:00	第6講	業界と社会に対する学習①	ゼミ	受入先担当者や修了生のゲストスピーカーによるお話をも とに受入れ先について探求し、事前学習レポート作成 のポイントを学び、内容を深めます。
	11:10～12:40	第7講	業界と社会に対する学習②		
	13:40～15:10	第8講	スキルアップトレーニング	ゼミ	ロジカルシンキングの獲得を目指し、専門講師を招いて 実践的理論を学びます。
	15:20～16:50	第9講			
7/2(土)	10:00～11:30	第10講	実習に向けた目標と仮説設定①	ゼミ	グループディスカッションを通じ、事前学習の総まとめと して、実習目的を明確にします。また、事前学習レポート の書き方のポイントを学びます。
	12:30～14:00	第11講	実習に向けた目標と仮説設定②	ゼミ	グループディスカッションを通じ、事前学習の総まとめと して、実習目的を明確にします。また、事前学習レポート の書き方のポイントを学びます。
	14:20～15:50	第12講	実習に向けた目標と仮説設定③	ゼミ	事前学習レポートの内容をより深めます。
	16:00～17:30	第13講	リスクマネジメント講習②： 実習・事後学習に向けての心構え オリエンテーション：事務連絡	全受講 生合同	実習中に留意しなくてはならないリスクについて学びま す。 実習にあたっての準備、確認・注意事項を説明します。
実習の実施（原則として8月中旬～9月中旬の期間で実施されます。）					
9/17(土)	9:00～10:30	補講	※クラスによって実施される場合が あります	ゼミ	
	10:50～12:20				
9/24(土)	10:00～11:00	第14講	実習経験の共有①	ゼミ	事後レポートの概要をもとに、実習において得たことや 感じた課題等について相互に発表を行い、個々の体験 をクラスで共有します。それらに基づくディスカッション を通して仮説の検証を行い、レポートの内容を深めます。
	11:10～12:10	第15講	実習経験の共有②		
	13:10～14:40	第16講	実習経験の共有③	ゼミ	実習経験交流会に向けて、クラスとしての経験共有をま とめます。
	15:00～16:30	第17講	実習経験交流会	ゼミ合同	実習を通して学んだことをゼミごとに発表し、他のゼミの 発表を聞くことで、考え方や伝え方などを学び、事後学 習レポートの内容に反映させます。
	16:40～17:40	第18講	実習経験の振り返り 全体講評 修了式		他のゼミからのコメントから各クラスで振り返りを行った 後、全体講評による振り返りと修了証を授与します。

資料7. ビジネスコース・パブリックコースコーディネーター一覧

コース	主な業種・業界	クラス	受講生数	氏名	大学	所属等
ビジネス	コンサルティング・調査・研究 金融・証券・保険	B-1	13	岸 基史	同志社大学	経済学部
	マスコミ・広告・印刷・出版	B-2	13	濱田 崇嘉	龍谷大学	経営学部
	マスコミ・広告・印刷・出版 その他	B-3	12	村山 弘太郎	京都外国語大学	外国語学部日本語学科
	エンタテインメント レジャー・アミューズメント	B-4	16	黒田 健二	京都聖母女学院短期大学	生活科学科
	安全・メンテナンス・清掃 製造(電気機械設備・半導体・精密機器)	B-5	14	桜沢 隆哉	京都女子大学	法学部
	コンサルティング・調査・研究 医療・福祉	B-6	14	伊原 千晶	京都学園大学	人文学部心理学科
	運輸・物流 不動産・建築設計 その他	B-7	14	佐々木 厚司	京都工芸繊維大学	大学院工芸科学研究科
	教育(学校・大学等)	B-8	15	坂本 雅則	龍谷大学	経営学部
	教育(学校・大学等) 人材ビジネス	B-9	15	蒲生 孝治	京都女子大学	
	金融・証券・保険	B-10	13	山内 雄気	同志社大学	商学部
	マスコミ・広告・印刷・出版 土業(法律・会計事務所)	B-11	13	山田 廣己	京都産業大学	大学院法務・法学研究科
	ブライダル 宿泊・レストラン・フードサービス	B-12	16	手嶋 英貴	京都文教大学	総合社会学部
	宿泊・レストラン・フードサービス 製造(食品)	B-13	14	遠藤 敏幸	同志社大学	商学部
	商社・卸売 小売・販売・専門店 その他	B-14	15	◎ 多田 実	同志社大学	政策学部
	小売・販売・専門店 製造(建設) その他	B-15	14	○ 三浦 潔	京都文教大学	総合社会学部
	小売・販売・専門店 製造(その他)	B-16	14	吉田 咲子	京都光華女子大学・ 京都光華女子大学短期大学部	キャリア形成学部
	製造(アパレル・繊維・食品) 小売・販売・専門店 その他	B-17	12	小橋 晶	同志社大学	経済学部
	ソフトウェア・通信 製造(半導体・精密機器・化学・その他)	B-18	15	張 陽軍	龍谷大学	理工学部
パブリック	官公庁(地方公共団体) 教育(学校・大学等) 非営利組織(NPO・NGO)	P-1	15	◎ 古川 秀夫	龍谷大学	国際学部
	非営利組織(NPO・NGO) その他	P-2	15	李 為	京都産業大学	経営学部
	官公庁(地方公共団体)	P-3	16	三浦 誉史加	大谷大学	文学部
	官公庁(地方公共団体)	P-4	17	酒井 恵光	大谷大学	文学部
	官公庁(地方公共団体)	P-5	14	松村 千鶴	京都府立大学	教養教育センター
	官公庁(地方公共団体)	P-6	15	田中 幹大	立命館大学	経営学部
	官公庁(地方公共団体)	P-7	16	○ 河村 律子	立命館大学	国際関係学部

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料8. 受講生意識調査集計結果

就職に対する意識や自己理解に関する質問項目を設定し、実習若しくはプロジェクト実施の前後に同じ質問に回答する形式の調査を行い、インターンシップが与える影響についての考察を加えた。

社会人として仕事をするうえでの知識や心構えに関わる「就職レディネス」、自己管理能力の感覚に関わる「有能感」、自らの社会における立場をわかまえているかについて知る「自己主体性」の3つの要素を測定するため、30項目の指標を用いた(表-1)。

また、各質問についてはそれぞれ「非常に当てはまる」を6点、「かなり当てはまる」を5点、「やや当てはまる」を4点、「やや当てはまらない」を3点、「かなり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点として、平均点を算出し、グラフ化して比較した(表-2)。

1.実施日

ビジネスコース・パブリックコース
プログレスコース

2016年6月11日(土)／2016年9月24日(土)
2016年6月9日(木)／2016年10月27日(木)

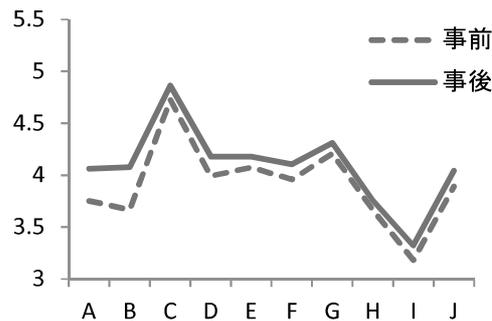
2.回答数

	実習許可 者数	事前		事後	
		回答数	回答率	回答数	回答率
ビジネスコース	252	352	97.8%	327	90.8%
パブリックコース	108				
プログレスコース	61	61	100.0%	57	93.4%
合計	421	413	98.1%	384	91.2%

表-2. 意識調査結果(比較)

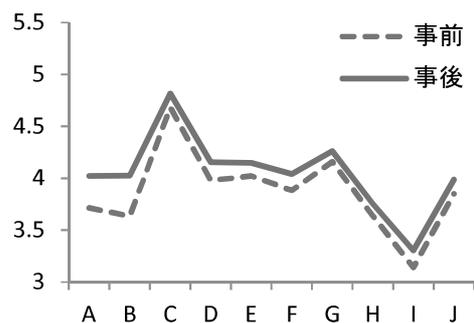
<全体>

「有能感」、「自己主体性」ではコースにより各項目変化に差が生じたが、両コースともに「就職レディネス」に関する項目の変化が大きく、インターンシップに参加することで社会人になる心構えに変化が生じることがわかる。



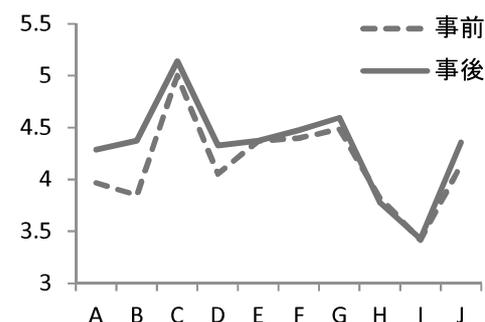
<ビジネスコース・パブリックコース>

全体的に事後調査が事前調査を上回る結果となった。「就職レディネス」の項目の変化が大きく、実際の仕事の体験を通じた社会人との関わりが大きな変化をもたらしていると考えられる。



<プログレスコース>

「有能感」に関する項目の中のH「生活規律」で、事後調査で事前調査を下回る結果となったが、「就職レディネス」の項目に関する変化、及び「自己主体性」に関する項目の中でのJ「自己理解」の変化が大きく、様々な職業、社会人との関わりながら長期間のプロジェクトを実行する過程が変化をもたらしたと考えることができる。



資料8. 受講生意識調査集計結果

表-1. 意識調査の指標と平均点

		実習前				実習後			
		ビジネス・ハブリック		全体		ビジネス・ハブリック		全体	
		平均	プログレス	平均	プログレス	平均	プログレス	平均	プログレス
就職 レディ ネス	A	職場の人間関係への理解	職場の人間関係の難しさはある程度知っている。 仕事上の優れたリーダーシップのあり方が分かる。 職業人としての礼儀、作法を心得ている。	4.16	4.46	4.21	4.39	4.77	4.44
	B	組織で働くことへの理解	上司と部下の人間関係の複雑さを理解できる。 働くことがどういふことか知っている。	4.09	4.36	4.13	4.26	4.56	4.31
	C	学生と社会人の区別	組織がどのように運営されているのかある程度わかる。 学生のアルバイトと社会人の仕事は全く違うものである。 意識や考え方における社会人と学生の違いがわかる。 定職に就かずフリーターとしてやっていくことはいやだ。	3.19	3.41	3.22	3.79	4.11	3.84
	D	ジェンダー問題への気づき	社会の裏側にある汚い面がある程度知っている。 職場に男女差別の問題があることを認識している。 今の社会では、女性が働き続けていくことは大変である。 やるべきことを実際、行動に移せる。 やるべきことを最後までやり遂げることができる。 与えられた仕事を上手くこなす自信がある。	4.74	5.05	4.79	4.84	5.14	4.89
	E	実行力	3.98	4.33	4.03	4.45	4.75	4.49	
	F	環境適応力	5.32	5.62	5.37	5.16	5.53	5.22	
	G	柔軟な物事の 見方	3.52	3.66	3.54	3.98	4.32	4.03	
	H	生活規律	4.31	4.49	4.33	4.40	4.46	4.41	
	I	社会へのコミット ト感	4.11	4.02	4.10	4.08	4.21	4.10	
	J	自己理解	4.19	4.43	4.22	4.06	4.39	4.11	
有能感	A	異なった状況や環境にうまく適応できる方だ。 いろいろな困難に耐えうる精神力がある。 人間関係を通して学ぶずべを知っている。	4.26	4.85	4.35	4.46	4.72	4.50	
	B	広い視野で物事を見るようにしている。 いろんな角度から考えて、動くようにしている。 人それぞれの個性を認めることができる。	3.62	3.84	3.66	3.92	4.02	3.93	
	C	今、規則正しい生活を送っている。 毎日休まず働くことができると思う。 取引先や顧客との関係の持ち方を心得ている。	3.88	4.33	3.94	4.01	4.26	4.04	
	D	自分社会にとって必要な人間だと思う。 いつかは新しく会社をおこすことに参画する自信がある。 社会の一員としての自分を客観的に見ることができる。 自分に欠けている部分をきちんと把握している。 自分の興味・関心について人に説明できる。 自分の進むべき道を十分に認識している。	3.93	4.49	4.01	4.05	4.39	4.10	
	E	4.00	4.31	4.05	4.14	4.56	4.21		
	F	3.88	4.20	3.93	4.03	4.40	4.08		
	G	4.60	4.95	4.65	4.61	4.82	4.64		
	H	3.55	4.05	3.62	3.58	3.56	3.58		
	I	4.09	3.93	4.07	4.01	3.86	3.99		
	J	3.28	3.49	3.31	3.67	3.91	3.71		
自己主体性	A	自分社会にとって必要な人間だと思う。 いつかは新しく会社をおこすことに参画する自信がある。 社会の一員としての自分を客観的に見ることができる。 自分に欠けている部分をきちんと把握している。 自分の興味・関心について人に説明できる。 自分の進むべき道を十分に認識している。	3.42	3.62	3.45	3.58	3.63	3.59	
	B	2.52	2.69	2.54	2.64	2.60	2.64		
	C	3.48	3.93	3.55	3.69	4.05	3.74		
	D	4.08	4.23	4.10	4.31	4.65	4.36		
	E	4.06	4.39	4.11	4.08	4.42	4.13		
	F	3.41	3.80	3.47	3.57	4.00	3.64		
	G	4.00	4.31	4.05	4.14	4.56	4.21		
	H	3.88	4.20	3.93	4.03	4.40	4.08		
	I	4.60	4.95	4.65	4.61	4.82	4.64		
	J	3.55	4.05	3.62	3.58	3.56	3.58		

2016年度インターンシップ・プログラム実施報告書

発行日 2016年12月

発行・編集 公益財団法人 大学コンソーシアム京都
教育事業部 インターンシップ事業推進室

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内

TEL:(075)353-9106 FAX(075)353-9101

<http://www.consortium.or.jp>
